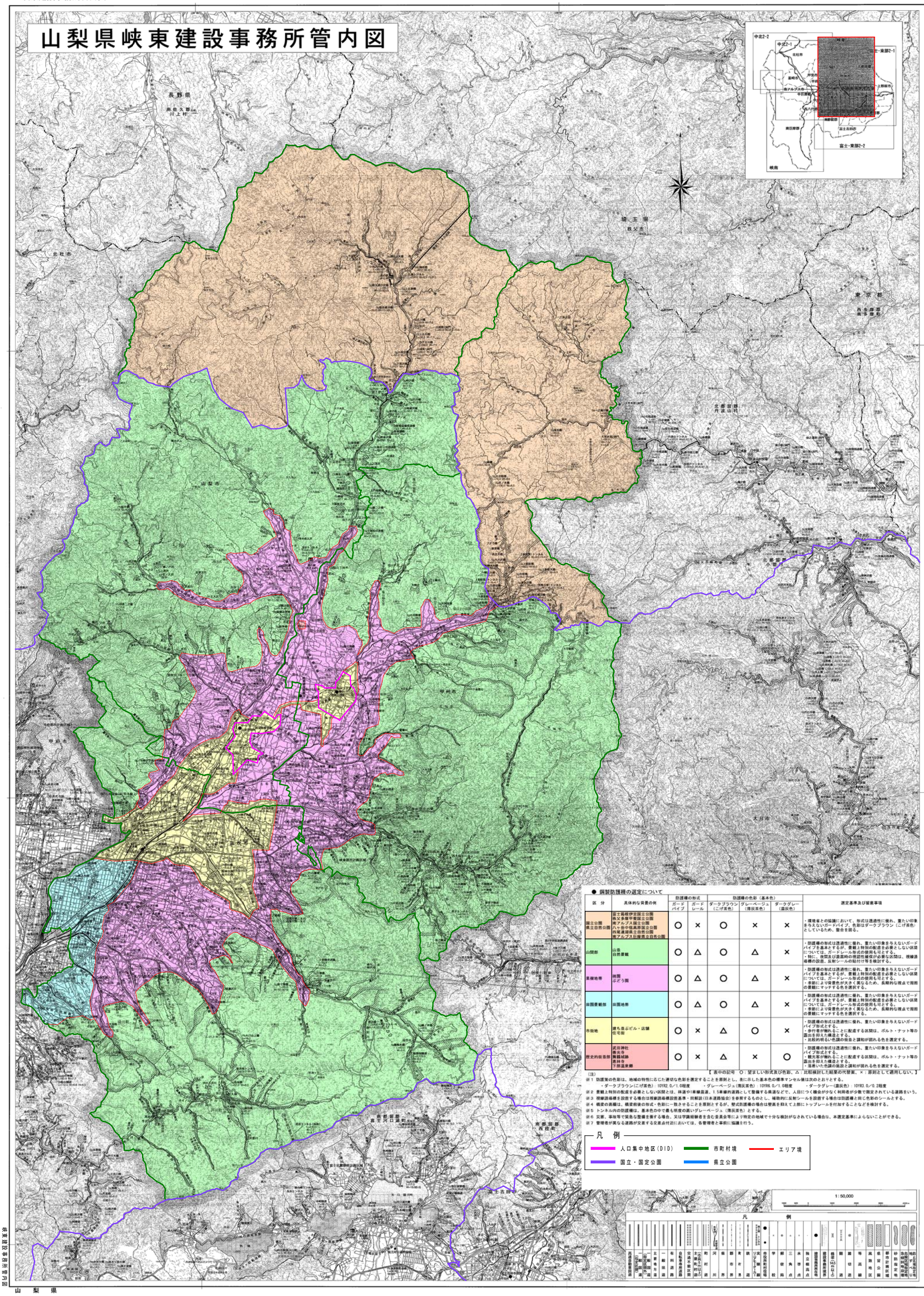
防護柵景観検討エリア区分図

峡東建設事務所管内図



● 鋼製防護柵の選定について

区分	具体的な背景の例	防護柵の形式 ガードパイプ	防護柵の形式 ガードレール	防護柵の色彩（基本色） ダークブラウン（こげ茶色）	防護柵の色彩（基本色） グレーベージュ（薄灰茶色）	防護柵の色彩（基本色） ダークグレー（濃灰色）	選定基準及び留意事項
国立公園 県立自然公園	富士箱根伊豆国立公園 秩父多摩甲斐国立公園 南アルプス国立公園 八ヶ岳中信高原国立公園 西湖浦湖県立自然公園 南アルプス巨摩県立自然公園	○	×	○	×	×	・環境省との協議において、形式は透過性に優れ、重たい印象を与えないガードパイプ、色彩はダークブラウン（こげ茶色）としているため、整合を図る。
山間部	山岳 自然景観	○	△	○	△	×	・防護柵の形式は透過性に優れ、重たい印象を与えないガードパイプを基本とするが、景観上特別の配慮を必要としない区間については、ガードレール形式の使用も可とする。 ・特に、夜間及び悪露時の視認性確保が必要な区間は、視線誘導標の設置、反射シールの貼付け等を検討する。
果樹地帯	桃園 ぶどう園	○	△	○	△	×	・防護柵の形式は透過性に優れ、重たい印象を与えないガードパイプを基本とするが、景観上特別の配慮を必要としない区間については、ガードレール形式の使用も可とする。 ・季節により背景色が大きく異なるため、長期的な視点で周囲の景観にマッチする色を選択する。
田園景観部	田園地帯	○	△	○	△	×	・防護柵の形式は透過性に優れ、重たい印象を与えないガードパイプを基本とするが、景観上特別の配慮を必要としない区間については、ガードレール形式の使用も可とする。 ・季節により背景色が大きく異なるため、長期的な視点で周囲の景観にマッチする色を選択する。
市街地	建ち並ぶビル・店舗 住宅街	○	×	△	○	×	・防護柵の形式は透過性に優れ、重たい印象を与えないガードパイプ形式とする。 ・歩行者が触れることに配慮する区間は、ボルト・ナット等の露出を抑えた構造とする。 ・比較的明るい色調の街並と調和が図れる色を選定する。
歴史的街並部	武田神社 善光寺 舞鶴城跡 恵林寺 下部温泉郷	○	×	△	×	○	・防護柵の形式は透過性に優れ、重たい印象を与えないガードパイプ形式とする。 ・観光客が触れることに配慮する区間は、ボルト・ナット等の露出を抑えた構造とする。 ・落着いた色調の施設と調和が図れる色を選定する。

【 表中の記号　○：望ましい形式及び色彩、△：比較検討した結果の代替案、×：原則として適用しない。】

（注）

※1 防護柵の色彩は、地域の特性に応じた適切な色彩を選定することを原則とし、表に示した基本色の標準マンセル値は次のとおりとする。

・ダークブラウン（こげ茶色）：10YR2.0／1.0程度　・グレーベージュ（薄灰茶色）：10YR6.0／1.0程度　・ダークグレー（濃灰色）：10YR3.0／0.2程度

※2 景観上特別の配慮を必要としない区間とは、林道や1車線農道、1.5車線的道路として整備する県道などで、人目につく機会が少なく利用者が少数で限定されている道路をいう。

※3 視線誘導標を設置する場合は視線誘導標設置基準・同解説（日本道路協会）を参照するものとし、補助的に反射シールを設置する場合は防護柵と同じ色彩のシールとする。

※4 橋梁の高欄は、橋梁側後の形式・色彩に一致させることを原則とするが、壁式防護柵の場合は壁高を抑えて上部にトップレールを付加することなどを検討する。

※5 トンネル内の防護柵は、基本色の中で最も明度の高いグレーベージュ（薄灰茶色）とする。

※6 災害、事故等で緊急な整備を要する場合、又は学識経験者を含む委員会等により特定の地域で十分な検討がなされている場合は、本選定基準によらないことができる。

※7 管理者が異なる道路が交差する交差点付近においては、各管理者と事前に協議を行う。

禁複製転載